

第3回（仮称）奈良IC周辺まちづくり懇話会 議事録

日時：平成27年11月25日（水）10：00～12：00

於：奈良市役所 中央棟6階正庁

1. 出席者

1. 委員

大窪 健之	立命館大学 都市システム工学科 教授
国枝 よしみ	大阪成蹊短期大学 副学長 観光学科 教授
北口 照美	奈良佐保短期大学 客員教授
向井 光太郎	奈良佐保短期大学 生活未来科 准教授
大西 耕司	大安寺地区自治連合会 会長
河野 良文	大安寺 貫主
名草 康之	奈良県立図書情報館 副館長

（欠席委員）

佐藤 由美	奈良県立大学 地域創造学部 准教授
梅林 聡介	大安寺西地区自治連合会 会長

2. 事務局

副市長	津山 恭之
都市整備部長	喜多 六宏
都市整備部次長	宮本 和典
都市計画課長	角井 力
課長補佐	森川 健司
都市基盤整備係長	小林 稔
他3名	

2. 議事

1. 開 会（司会：事務局）

只今から第3回（仮称）奈良IC周辺まちづくり懇話会を始めさせていただきます。

ご参加の皆様には、お忙しいところご出席を賜りありがとうございます。また、日頃、奈良市行政にご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

議事進行に先立ち、副市長の津山よりご挨拶申し上げます。

○副市長挨拶

本日はお忙しい中、ご足労いただきありがとうございます。

私たちは、地域ミーティングで地域の声を聞かせていただきに回っているわけですが、その中で地域の方々から「まちづくり」という言葉がよく出てまいります。少子高齢化が進む中、地域におかれても「まちづくり」が大きな課題となっていると実感しているところでございます。その中で本日の懇話会でございますが、名称は、奈良IC周辺まちづくり懇話会であります。地域においては、奈良ICとJR新駅という都市施設が配置され、奈良市の新しい南の玄関口として考えているところであり、ハード整備を中心に、地域の中から出てくる「まちづくり」を意味するところかと思っております。学識の先生方とともに、県立図書情報館の副館長、大安寺自治連合会長、大安寺貫主にもご出席いただき、様々なご意見をいただく中でまちづくりを検討させていただけたらと思っております。今後とも活発なご意見とともにご指導をいただけたら、ありがたいと思っております。

○資料確認

○委員・事務局紹介

- ・奈良県立図書情報館 副館長は、前任の山田委員から名草委員に交代
- ・欠席委員：奈良県立大学准教授 佐藤委員
大安寺西地区自治連合会 梅林委員

2. (仮称) 奈良 I C 周辺まちづくり委員会設置要領の変更について

(事務局)

○ (仮称) 奈良 I C 周辺まちづくり委員会設置要領の変更について報告

- ・第2回までは「(仮称) 奈良 I C 周辺まちづくり委員会」として開催してきたが、地方自治法第138条の4第3項において、市町村が任意に設置する附属機関については本来条例に基づかなければ設置できないとされており、近年、要綱等で設置する審議会等について違法性が問われる議論や裁判が全国的に続いている。
- ・奈良市においても、平成27年2月に奈良市附属機関及び運営に関する指針が策定され、要綱等で設置された審議会等について、市の附属機関に該当するものは、3月議会において条例による設置がされた。
- ・(仮称) 奈良 I C 周辺まちづくり委員会については、市行政に対する市民の意見の反映または専門的知識の導入等を図ることを目的としていることから、懇話会に分類されることとなるため、平成27年4月30日付で設置要領、委員会の名称を懇話会に変更した。

3. (仮称) 奈良 I C 周辺における都市計画変更の状況について

(事務局)

○ (仮称) 奈良 I C 周辺における都市計画変更の状況について報告

- ・変更の対象路線は、以下の通り。
 - 都市高速鉄道 西日本旅客鉄道関西線（平面構造から高架構造への変更及び新駅の追加）
 - 都市計画道路 西九条佐保線（高架構造から平面構造への変更）
 - 八条紀寺線（一部区間の廃止）
 - 六条奈良阪線（八条紀寺線との交差部における区域変更）
 - J R 高架側道4号線（全線新規決定）
 - 四条線（西九条佐保線との交差部における区域変更）
 - 大森西町線（西九条佐保線との交差部における区域変更）
- ・県市ともに都市計画の変更手続きを進めており、11月末には都市計画変更の決定告示を行い、引き続き事業認可手続きに入る予定。

※ここからの進行は、大窪委員長

4. 第2回委員会での意見に対する説明

(事務局)

○第2回委員会での意見に対する説明

【質疑】特になし

5. 第3回まちづくり懇話会 資料説明及び質疑応答

(事務局)

○（仮称）奈良 I C 周辺まちづくり委員会資料の説明

■前回のおさらい部分（P. 1～23）について説明

【質疑】 特になし

■整備方向の展開イメージ（P. 24～）について説明

【質疑】

（大窪委員長）

ご質問やご意見をいただきたい。

ポイントは、前回までの C 案：副都心形成型を、C' 案：新地域拠点形成型とし、新しいニーズを組み込んでいったらどうかという変更である。

私からの質問だが、P28をみると、C案で、副都心公共・公益機能とあったものが、C'案では広域交流拠点機能に替わっている。「新地域拠点形成型」のタイトルに対して、広域交流拠点機能となっている。本来なら「地域」というキーワードがあっただけかと思うが、いかがか。

（事務局）

I C や駅ができるので、広範囲の方が訪れる玄関口になる。地域のみならず広いエリアを対象とした交流を含めたいという思いから広域交流拠点機能とした。

（大窪委員長）

地域のことも一緒に考えなければいけないと思うので、提案だが、地域・広域交流拠点機能としたらどうか。両方の意味を持たせた方がより豊かな検討ができると思う。言葉の問題かもしれないが、ご検討をいただければ。

（名草委員）

C' 案：新地域拠点形成型の中に、健康福祉ゾーンや住宅地の整備もあるので、人口増のポテンシャルのある地域であり、自然と拠点づくりが行われるという趣旨だと思っていた。図書館の立場からも地域は大事だと思っている。交流施設を政策的に整備するのであれば、普段の魅力ある地域づくりも必要だという印象を持っている。

（大窪委員長）

交通結節点として、より広い皆さんの役に立つこと、あわせて、地域の中でも拠点として交流できるという意味合いが、求められる機能であり、広域はもちろん、地域の交流機能も付加されるべきだと思う。事務局で総合的に勘案・検討してほしい。

P29のC'案で健康福祉ゾーンになっているエリアは、A案では物流センター、B案では住宅地、C案では住宅・商業一体のまちと、それぞれ違う要素が入っている。その背景や理由を整理していただきたい。

また、このエリアは、佐保川・岩井川の合流点の氾濫原で、浸水可能性のあるエリアに一部かかっている。慎重な対応が求められるエリアであるが、東西の観光軸として位置付けた場合、災害対策はどうか。

（事務局）

このエリアについて、A～C案では、他の土地利用をイメージしていたが、浸水の可能性があるところなので、住宅以外のスポーツ、健康等の施設がよいのではないかとということで、C'案では健康福祉ゾーンの位置付けにしている。また、佐保川沿いでは、奈良県が遊歩道の整備をされている。南側はゴルフの練習場であり、住宅地と隣接するのは夜間の照明等の関係で難しいとの考えもあり、新たに健康福祉ゾーンとして設定した。

(国枝委員)

質問ではなく意見を述べる。P 33に示されている観光交通体系は非常によいと思う。現在、奈良市に来る年間1,300万人の観光客のうち、500万人程度が近鉄奈良駅、残りがJR奈良駅と、2つの駅に分散している。観光客を新駅に誘導するには、メリットを示し、利便性をアピールする必要がある。世界遺産の先進事例をみても、ゾーンの環境を守り、来られる方の快適性を維持し、地域の方を含めた持続可能性を担保するために、大きな流れをコントロールすることは適切だと思う。シャトル便の整備は、地域の方にとっても観光客にとっても双方にメリットがある。先進事例でも、シャトル便を導入するケースは多い。シャトル便だけでは利益が上がらないので、バスの形状、運行計画、駐車場の運営を含めて10年くらいの計画で入札し、順調に実施している例もある。特に奈良の場合は環境への配慮が必要な要件である。シャトル便を活用すれば、近鉄奈良駅、JR奈良駅と差別化ができ、来られる方の利便性が上がり、地域の環境にもメリットがあると思う。あとは、どう循環したら地域の活性化につながるかというところだと思う。

(大窪委員長)

ただいまのご意見について、事務局から何かあるか。観光シャトル便検討の背景についても補足説明をお願いします。

(事務局)

ループ状に循環する観光ルートは、奈良市内にはない。パーク&バスライドで、市内中心部に車を乗り入れないという意味合いで、奈良県がパーク&ライド駐車場をつくる話があり、ここを拠点として、ループで周辺の世界遺産巡りができればと考えている。具体的にはこれから詰めていくが、交通の分散、交通渋滞の緩和、排ガスの世界遺産への影響などを踏まえ、このような形を理想として考えている。

(大窪委員長)

奈良の資源を回るためのシャトル機能については、循環をどうするかを含めて非常に大事な検討事項になってくる。その如何によって地域の交通負荷が変わってくる。シャトル便の流通量により、プールする必要のあるバスの台数、交通流動の予測などが変わってくる。上位計画とのすり合わせの中であらかじめ慎重に検討しておく必要がある。貴重なご意見であり、引き続き検討していただければと思う。

(北口委員)

観光交通体系は大切だと思う。徒歩や自転車、特に自転車で走ることが大切であり、そのルートも頭に入れておきたい。

シャトル便は、平城宮跡に直接行くようなものでなく、西の方が中心になると思うが、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡をひとつのまとまりとして考え、ループで回るルートがよいと思う。観光交通を考える場合、東側については、史跡公園の話もあるので、大安寺を入れていただきたい。

この図ではシャトル便が奈良公園ゾーンに行っているが、渋滞緩和やパーク&ライドも含め、県庁横の交通ターミナルと結ぶことも考えてよいのではないかと。関西本線で来る人は東大寺に行く場合、直接JR奈良駅に行く。平城宮跡、西ノ京と奈良公園とでは考え方を変えた方がよいと思う。

(大窪委員長)

自転車で移動できるようにという考え方は、第2回にも議論された。資料上も明記しておいた方が、継続検討できてよい。

シャトル便は、現在は拠点と直接行き来するようになっているが、点線で書いたループ状の機能が重要だというご指摘である。点線と直線の違いについての意図があれば教えていただきたい。

また、大安寺も重要な拠点になるので、観光交通体系図に明記するようにというご意見である。

さらに、奈良公園ゾーンとのつながりも十分考えていかなければということである。我々のミッションは新駅周辺のまちづくりを考えることになるが、結節点機能を担うとなると、交通体系の未来予想図もあわせて考えていかないと拠点整備の内訳を検討することが難しい。現在、観光循環やシャトル便について、こういった形で検討しているのか、教えていただきたい。

(事務局)

自転車で走るルートについては、次回、資料を提示する。

観光交通体系の点線で示した大循環のループと実線で示した直行便については、現段階で想定されるものであり、点線と実線については特に意味はない。ご指摘の平城宮跡と西ノ京を回る小循環のイメージも必要だと考えている。

大安寺については、次回資料に入れる。

奈良公園ゾーンの近くの県庁の横で奈良県がターミナル整備を進めている。具体化すれば、観光交通の分野で協議を進めたいが、現段階ではまだ調整段階に至っていない。

(大窪委員長)

シャトル便や循環線については、今の段階ではイメージであり、他で議論されているわけではないようなので、ある意味、ここで検討してもよいということになる。

(河野委員)

奈良を徒歩や自転車で回ることを活性化していただきたい。歴史の道がつくられているが、実際は、よくわからず、なかなか歩けない。一部区間は利用されているようだが、ほとんど活かされていない。将来的には、西ノ京エリアにあるような自転車道で平城京を周回できるようになればありがたい。そのうえで新駅周辺が結節点になればという思いを持っている。

以前に、平城京時代の条坊の位置を図示していただきたいと申したことがある。このあたりは、平城京の五条、六条、二坊、三坊という大路が交差する場所であった。大路の間隔は510m、道幅は23～24mであり、1辺が510mの区画が幅8mの小路で16分割されていた。分割された120m四方の正四角形の大きさが一坪であり、16の正四角形で1町となる。そういった壮大な規模のものであったが、今の奈良にはどこにも残されていない。新たなまちづくりをするのであれば、条坊の区画を一部でも表現し、たとえば、昔の一坪に合った住宅地などができれば、奈良のいにしえを表す場所として、新たな観光につながると思う。古民家風の建物など統一感を持ったまちなみを形成する場所として考えていけないか。大安寺南門から薬師寺南門に通じるルートが昔の六条大路になる。六条大路が通るエリアであるので、それが活かされればと思う。

(大窪委員長)

一つ目は、自転車でも回れる環境づくりが望ましいというご意見である。次回、事務局から自転車ルートの案を示していただき、それに対してご意見をいただきたい。

もう一点は、平城京の条坊との関係性を見直してはどうかというご提案である。次回は、かつての条坊の位置と現在のまちを重ねて検討できるような資料を追加していただきたい。一部を再生していくことで、拠点の結節点としての可能性を高めていくことができるかもしれないし、何よりも歴史的な環境の再生という、奈良ならではの大きな特徴を生かす可能性も出てくる。

(事務局)

国や奈良県が自転車道の整備計画を持っている。それらを踏まえた当地域での自転車、歩行者のルートを提示したい。

過去の都の形を^{しるし}印として残していくことについても検討材料として承っておく。

(大西委員)

自転車で周遊するには、道路の整備が肝心である。ＩＣができると車の量も増え、非常に危険である。特に大安寺地区は歴史が古く、県道ながら対向もできない現状である。関西線の八条の踏切から東の信号の間は横に河川があり、歩道がない。人は危険なのでほとんど通らず、済生会病院に行くのにも佐保川沿いを迂回している。車で走っていても自転車には十分気を付けなければならない。県と連携し、拡幅や歩道橋の整備など、自転車、歩行者が安心して通れるように検討いただきたい。

また、大安寺の南側の道路は、都市計画道路の廃止区間となっているが、木津横田線から西九条佐保線までの道路は、ＩＣへのアクセス道路である。通学道路でもあり、ぜひとも歩道が必要である。周辺は大安寺旧境内であり、文化財とも関係するが、検討をお願いしたい。

(大窪委員長)

徒歩や自転車で回れる環境をつくることは非常に大事なコンセプトである。ただ、実現するには、道路網の見直しや改善が、危険を増加させないためにも必要だというご指摘であった。旧六条大路のエリアは都計道路としては廃止されているが、自転車でアクセスするうえで重要な路線である。都計道関連などで検討されている場合は、その内容を事務局からご説明いただきたい。なければ、拠点の議論を経て、懇話会から提言する形になろうかと思う。

(事務局)

県道京終停車場薬師寺線の八条踏切から東側の信号までの区間は、新駅、ＩＣの整備により、今まで以上に人や自転車、車の往来が増える。県と市とで歩道整備や拡幅の協議を進めているが、具体的な整備内容は確定していない。

大安寺南側の市道は、大安寺旧境内という史跡の中を東西に通っている。文化財関係の部署とも調整しながら車が対向できるような道幅と歩行者が安全に通行できるような道としての整備手法を検討していく。交通の重要な東西軸であり、地元とも話しながら進めていきたい。

(向井委員)

Ｃ’案について、広域交流の「交流」の中身をはっきりさせないと抽象的にならないか心配である。ＪＲからのハブ拠点だとすると、いろいろなところに分かれていくので、交流とは違う部分になる。観光客にとって、住宅地は関係ない。地元と共存させようと思えば、地元周辺の方にとっても役に立つ機能が必要である。たとえば、健康福祉ゾーンを医療のハブとすることも考えられる。ここから速やかに移動することへの優先度が高いとすれば、宿泊施設の規模は検討が必要かもしれない。地元の方々に対しては、県庁や、市役所の機能なども考えられる。各ゾーンの面積等も勘案しながら、より具体的な案に持っていったらよい。

(大窪委員長)

交通のハブ拠点というだけで、交流が生まれるのかという問題があり、たとえば医療や役所機能など地域の人にも役立つ拠点的な整備も十分検討する必要がある。また、そもそも人が滞在するのか、というご意見もある。この地域の位置付けを明らかにしていく中で、施設や機能について、具体的な検討をしていく必要があるということで、今後、いくつか提案をいただき、ご意見をいただきながら整理していくことになると思う。今の範囲で事務局からの補足等あればお願いする。

(事務局)

乗り継ぎ、時間調整など、ちょっとした時間を新駅周辺で過ごせるような拠点、通過するだけでなく、賑わい交流といったイメージで滞在時間をとっていただく施設ということで、基本構想、基本計画の中で具体化していきたい。

(北口委員)

Ｃ’案の方向でよいと思う。Ｐ３０の目指すまちの姿はイメージできるが、長所評価できる点の「奈良市を代表する拠点を整備することで周辺が活性化できる」「単なる交通・観光拠点ではなく、奈良市

の新しいまちを感じ…」については、具体的なイメージがわいてこない。これからだと思うが、このあたりがもう少し見えてくるとよいと思う。

また、新駅やICは高いところができる。奈良は景観が大切であり、新駅に降り立ったら薬師寺の塔が見える、平城宮跡の大極殿が見えるなど、奈良の都が感じられることが大切だと思う。羅城門の川の土手から平城宮跡の大極殿が見える場所があるが、こういったことは、平城京、平城宮の大きさを感じるうえで非常に大切である。駅を降りたときの景観は、奈良のまちづくりにとって非常に大切だと思う。

(大窪委員長)

まず、コンセプトとしては了承できるが、具体的にどんな機能を盛り込むかが重要なポイントとなるので、具体化を視野に入れてご検討いただきたいということ。

もう1点、高架が生じるので、そこからの眺望・景観に配慮したうえで計画を検討すべきではないかというご意見である。駅を降りて、そこから見えたところに自転車で行ってみるなど、地域の構造がわかりやすいことは、安心感を持って人々を目的地に導くことにもつながり、まちづくりにとって重要である。視点場についても検討の中に入れていくべきだとのことのご意見であった。具体化の過程で眺望についても検討に入れていただければと思う。

ご欠席の佐藤委員のご意見について、事務局から紹介いただきたい。

(事務局)

事前説明の際に佐藤委員からいただいたご意見を紹介する。

- ① JR奈良駅との棲み分けが必要である。JR奈良駅前できえ、スーパーホテルしか来ない状況の中で、この場所にはよりリーズナブルな宿泊施設を配置するのか、あるいは京都のように静かで落ち着いた雰囲気の宿泊施設を目指すのかを検討する必要がある。
- ② 乱開発により汚いまちになってはもったいないので、地区計画や景観計画を定めるべきである。
- ③ JR奈良駅と近接している状況の中で、交通結節機能が十分発揮できるよう、検討が必要である。

(大窪委員長)

本日は様々な視点から多面的なご意見をいただいた。ご意見、ご指摘の内容を踏まえて、次回までにご検討いただきたい。大きな流れとして、B案を中心にA案の要素を付加するという方向性がいったん出されたが、本日、新たにC'案、地域と広域の交流機能を組み込むということで次に進めてはどうかという提示があった。ご異議、ご意見はないか。(特になし)

○次回日程

第4回懇話会は1月27日(水)午後を予定

2月中旬に実施予定のパブリックコメントの確認

6. 閉 会